■ 令和3年度教育行政方針

本日ここに、令和3年第1回 奥州市議会定例会が開催されるに当たり、令和3年度の教育行政の主要な施策について所信の一端を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

人を育む教育は社会形成の礎であるという認識のもと、市総合計画や教育振興基本計画などの諸計画に基づき、「一人ひとりが輝く」教育を推進します。

また、未来を拓く人材を育てるため、本市の伝統である「学ぶこと」を念頭に置き、「知育・徳育・体育」の調和的な推進のため、学校教育の充実などに、きめ細かな施策を展開します。

以下、令和3年度の教育行政の重点施策について、第2次奥州市総合計画に掲げる施策の体系に基づき申し述べます。

I 「生きる力」を育む学校教育環境の充実

はじめに「『生きる力』を育む学校教育環境の充実」について申し上げます。

1 学校教育の充実

1つ目は、「学校教育の充実」であります。

(1) 総括的事項と4点の重点項目

学校教育は、各学校の学校経営によって支えられており、教育課程に基づき教職員が一丸となって組織的かつ計画的に、教育活動の充実を図っていく必要があります。そのために、教職員の健康・安全を守る職場環境づくりを進め、「教職員の働き方改革」を推進します。

令和3年度の教育指導の要点・柱は、「児童・生徒の人間関係づくりと教職員の同僚性を大切にした教育の推進」、「共に学び、共に育つ教育の推進」、「家庭・地域との協働による学校経営の充実」、「岩手で、世界で活躍する人材の育成」を土台とし、次の4点について重点的に取り組みます。

1点目は「幼小連携の充実」です。幼児教育推進体制の構築と幼児教育アドバイザーの養成・派遣を行い、幼稚園と保育所、公立・私立などの垣根を越えた連携と、小学校との円滑な接続に向けた支援を行い、保育・幼児教育の更なる充実を目指します。

2点目は「確かな学力を保障する教育の充実」です。今年度は中学校においても新学習指導要領が全面実施されることから、その趣旨を踏まえ、児童・生徒一人ひとりに確かな学力を保障する教育の充実に努めます。

そのために、「授業力アップ研修会」、「学校公開研究会」、「授業訪問」を、コ

コロナ禍の状況を見極めながら可能な範囲で実施するほか、中学校区内の小中学校が連携して研究を進める授業改善推進研究会を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と教員一人ひとりの資質の向上を図ります。

さらに、市全体及び各校において学習状況を分析し、全教員の共通理解のもと、児童・生徒のつまずきに対応した学習指導を進め、「わかる」だけでなく「できる」授業づくりに努めます。

また、小学校の外国語活動と、中学校の英語教育の充実を図るとともに、生徒が英語力の向上に向けて、意欲的に英語検定取得を目指し受験する機会を支援するため、昨年度に引き続き「英語検定の検定料助成事業」を実施します。

加えて、今年度は国のGIGAスクール構想に基づき、1人1台タブレットの配置が実現することから、新たに学校教育課内に情報教育推進室を設置し、ICT機器を適切に活用するための支援を図り、子どもたち一人ひとりの個に応じた学びの実現を目指します。

3点目は「心の教育の充実」です。まず、学校の教育活動全体を通して、児童・生徒がお互いの良さに気づき、違いを認め、それを受け入れながら共に支え合う望ましい人間関係を築き、自己肯定感が高まるよう支援します。そのために、学級集団の状態

を把握する「Q-Uテスト」を実施し、その分析結果を活用した課題解決に取り組みます。

次に、増加している不登校の対策として、問題行動等対策実行委員会を中心に、関係機関が連携して学校を支援することにより、「未然防止」と「初期対応」を大切にするとともに、児童・生徒の自立が促されるよう支援します。

さらに、いじめ対策として「学校いじめ防止基本方針」に基づいた全教職員による取組みを推進します。学校生活アンケートだけではなく、小さいいじめ行為も見逃すことのない教職員の体制づくりをより重視し、「初期対応」を丁寧に行うことを重点に、いじめの解消を図ります。

これらの不登校といじめへの対応として、学びと心の指導員や指導主事が継続的に学校を支援するとともに、適応支援相談員による一人ひとりの児童・生徒の支援に努めます。

また、子どもたちの豊かな心を育むため、読書活動や特別活動などに積極的に取り組み、他人を思いやったり、互いに助け合ったりすることができる心の教育の充実に努めます。

4点目は「特別支援教育の推進」です。一人ひとりの特性やニーズに基づいた特別の教育課程を編成するとともに、個別の教育支援計画などの見直しと、指導・支援に

おける計画の活用を促します。

各学校においては、特別支援教育コーディネーターを核として、校内研修会を実施するなど、組織的な校内支援体制の充実を図ります。幼児教育から高等学校までの継続的な支援と、関係機関と連携した多面的な支援を行います。

特別支援教育支援員配置事業では、支援員を増員し、関係機関との連携や研修会を通して、個々の状況に応じた支援の充実を図ります。併せて、教育研究所の特別支援教育を担当する職員が、学校を巡回し、児童・生徒のニーズに対応します。

(2) 健やかな体を育む教育の推進

以上の重点項目に取り組むと同時に、健やかな体を育むため、体力の向上や望ましい生活習慣の形成、薬物乱用防止などに関する保健指導を通して、心の健康を含めた健康教育を推進します。

また、栄養教諭や食育担当者と連携し、地産地消を推進するとともに、食への関心を高め、安全・安心な学校給食の提供と食育の推進を図ります。

(3) 特色ある教育の推進

さらに、グローバル化する社会に対応するとともに、国際リニアコライダー実現に向けたまちづくりにも貢献できる、広い視野をもった人材育成を図ります。そのために、外国語活動・外国語教育の充実に向け

てALTの積極的な活用を図ります。また、今後導入される一人一台タブレットを活用し、中学生海外派遣研修の派遣先である学校とのオンラインによる授業交流などを通して、外国語教育と国際理解教育の充実を図ります。

(4) 適正規模による学校再編の検討

学校再編については、適正規模による望ましい教育環境の構築を図るため、学校再編計画を策定し、地域ごとの検討委員会、準備委員会を立ち上げ、保護者、地域の考え方を尊重しながら、具体的な再編に向けて進めます。また、学校教育課内に学校再編推進室を設置し、再編に係る事務作業を進めます。

2 安全・安心な教育環境の充実

「『生きる力』を育む学校教育環境の充実」における2つ目は、「安全・安心な教育環境の充実」であります。

(1) 教育関係施設の改築事業と耐震化の推進

教育関係施設の改築事業と耐震化の推進については、老朽化が進む水沢中学校校舎改築に係る設計業務を進めます。

(2) 安全に配慮した施設の管理と整備

安全に配慮した施設の管理と整備については、幼稚園、小中学校や学校給食施設の施設設備に係る法定点検を行い、点検の結

果及び各施設からの情報に基づき、改修や修繕を実施します。

(3) 快適な教育環境の整備

快適な教育環境の整備については、児童・生徒などが快適に過ごすことができる環境を整えるため、計画的にトイレ洋式化工事などを実施します。

Ⅱ 次代をつむぐ歴史遺産の保存と活用

次に「次代をつむぐ歴史遺産の保存と活用」について申し上げます。

文化財は、地域社会の活性化や魅力ある郷土づくり、市民の学習活動における資源でもあります。郷土の歴史や先人の生き方を学び、市民、特に未来を担う子どもたちが郷土を理解して誇りを持つことができるよう、その基本となる歴史遺産の調査研究、適切な保存と活用を進めます。

以下、施策の体系に基づき申し述べます。

1 歴史遺産の公開と活用

1つ目は、「歴史遺産の公開と活用」であります。

市内には多くの史跡や歴史的建造物があり、また、牛の博物館などの文化財施設には貴重な史料が収蔵されています。

これらの歴史遺産を適切に保存するとともに、文化財施設では、常設展示のほか、

企画展示や巡回展示を開催して広く公開します。

さらに、市内の小中学校に施設の利用に関する情報を提供するとともに、「奥州市Web博物館」や市の広報を活用して、情報発信に努めます。

また、老朽化が進む施設については、施設の性格、利用状況、市域全体のバランスなどを勘案して、施設の整理統合について検討を進めます。

2 文化財の調査研究の推進

2つ目は、「文化財の調査研究の推進」であります。

斎藤子爵水沢文庫、旧安倍家住宅など歴史的価値の高い建造物は、国登録有形文化財への登録を進めます。

市内に残されている古文書など歴史資料は、所蔵調査のうえ、目録を作成するとともに、解読を進めます。そのほか、仏像などについて所蔵調査を行います。

世界遺産登録推進については、引き続き県及び関係市町と連携して取り組みます。

また、白鳥館遺跡^{しろとりたて}、長者ヶ原廃寺跡^{はいじあと}については、適切な保存と管理及び整備と活用を図るため、ガイダンス施設の建設に向けた準備を進めます。

3 文化財の保存と管理

3つ目は、「文化財の保存と管理」であります。

市内に多く所在する文化財を次世代へ継承していくため、定期的な点検を行うとともに、所有者に対して必要な助言を行い、適切な保存と管理が行われるよう支援します。

歴史的建造物は、適切な保存と管理を行い、計画的な修繕を進めます。

また、無形民俗文化財の継承と保存のため、郷土芸能祭などの発表の機会を提供するとともに、用具更新などの要望に対して補助を行います。特に「風流踊^{ふりゅうおどり}」の一つとして全国の風流芸能団体とともに、ユネスコ世界無形文化遺産への登録をめざす重要無形民俗文化財「鬼剣舞^{おにけんばい}」については、北上市とも連携を図り、登録に向けた活動を支援します。

4 文化財保護体制の充実

4つ目は、「文化財保護体制の充実」であります。

文化財を適切に保護するため、文化財指定や保存活用に関する重要事項について、文化財保護審議会に諮問し、その答申に基づき適切に管理を行います。また、関係機関や団体と連携するとともに、専門研修への積極的な参加により職員の知識と技能の習得に努めます。

Ⅲ 大綱「みんなで創る生きがいあふれるまちづくり」のうち教育委員会の所管項目

最後に、市の総合計画に掲げる大綱の「みんなで創る生きがいあふれるまちづくり」における施策のうち、教育委員会が所管するものについて申し上げます。

1 生涯にわたる学習活動への支援

1つ目は、「生涯にわたる学習活動への支援」であります。

市民一人ひとりが、生涯にわたり学びを深め、その成果を生かすことで豊かな人生を送ることができるよう、学習機会や情報の提供など生涯学習の支援を行います。

また、地区振興会による生涯学習事業が効果的に実施されるよう、人材育成などを通じて支援します。

家庭教育の支援及び青少年の育成については、家庭教育講演会や教育振興運動、青少年リーダー育成、放課後子ども教室など各種事業を地域ぐるみで実施し、青少年の社会参加活動への意欲向上や心豊かな人間性の涵養^{かんよう}を図ります。

2 本に親しむ活動の推進

2つ目は、「本に親しむ活動の推進」であります。

読書ボランティアとの連携による幼児や小中学生への読み聞かせ、高校生ボランティアの育成、毎月4日と定めている奥州市家庭読書の日「ねえ読んで」の普及や、図書館における読書活動の推進など、子どもから大人までが読書に親しむ環境づくりに

努めます。

また、図書館利用者の学習や調査研究を支援するため、必要となる資料や情報を提供するレファレンス機能を充実させるとともに、多様な企画展を催し、本に親しむ機会を提供します。

以上、令和3年度における教育行政の基本的な方針と施策の概要について申し述べました。

教育分野のデジタル化に向けたGIGAスクール構想の推進など、教育におけるICTの活用が強力に推し進められ、教育をめぐる環境は大きく変容していくことが予想されています。こうした中において、自分の夢や希望に向かって力強く進んでいこうとする奥州の子どもたちは、私たちにとっての希望であり、宝です。

昨年はコロナ禍の中、各種の学校行事が縮小・変更を余儀なくされました。その中であって、修学旅行先が県外から県内に変更されたことで、地元岩手の良さを再確認することができたとの成果も聞かれています。今後もコロナ予防対策に取り組みつつ、最大限の教育効果を上げることができるよう各学校と連携を図ります。

「学ぶことが奥州市の伝統であり 未来である」とする本市教育行政の基本理念のもと、奥州の子どもたちが、変化の時代をたくましく生き抜く力を身につけることが

できるよう、教育の発展に向けて全力で取り組みます。

議員各位並びに市民の皆様の深いご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、教育行政方針といたします。